

## 第4回東海選手権水泳競技大会の総括

静岡県が主管して、4年前に第1回の大会を静岡県立水泳場で開催してから、東海地区4県を一巡した今年の大会は愛知県の口論義運動公園温水プールを会場にして行われた。

静岡県は、小学生男子12名、女子13名、中学生男子14名、女子13名、高校生男子14名、女子12名の精鋭を選出し、戦いの場に臨んだ。

東海4県の対抗成績では、今年も愛知県の強さが目立った。小学生、中学生、高校生の男女全区分で優勝し、静岡県は全区分で準優勝であった。

各区分、男女別を見ても愛知県の強さは他の3県の追従を許さないものであった。そうした中で静岡県は、メドレーレーで高校生男子が意地を見せて優勝し、愛知県の全区分制覇を阻止した。また、杉山華彩選手が中学生100m背泳ぎと200m背泳ぎで優勝したのをはじめ、高校生男子で6種目、高校生女子が1種目、中学生男子で2種目、中学生女子が6種目、小学生女子で1種目で優勝した（成績は、日水連のホームページ等でご確認ください）。杉山選手や女子50m自由形の北木ともみ選手など中学1年生の活躍が目立ったことは、平成25年の全中へにつながる結果として期待が大いに高まった。

昨年までと異なるのは、岐阜県の台頭である。来年に迫った国体のための強化策が功を奏し、全体のレベルが上がっていることがその成績に反映し、静岡県に肉薄していることを感じる。また、三重県からも愛知県の選手を抑えて、1-2（ワンツー）フィニッシュの種目が大会新記録のおまけつきで複数種目が出るなど、東海地区4県のそれぞれの競技力が向上していることも強く感じた。

静岡県の競技力ももちろん向上しているが、今年はこの大会の戦いぶりや国民体育大会の成績、国際大会の選手の輩出数などを見る限り、まだまだ愛知県に追いつくには時間がかかりそうである。「静岡県がんばれ」と、静岡県の選手団及び保護者のみなさんが大会の開催中、どの県よりも大きな声で叫んでいた。静岡県の小学生選手、中学生選手、高校生選手の男子も女子もがんばれ。大きな目標を持って、もっと、もっとみんながんばれ。

### 総合成績一覧

	小学生（男子/女子）	中学生（男子/女子）	高校生（男子/女子）	総合
愛知県	優勝 282点(137/145)	優勝 318点(159/159)	優勝 324点(154/170)	優勝 924点
静岡県	2位 206点(87/119)	2位 260点(111/149)	2位 269点(154/115)	2位 735点
岐阜県	3位 160点(78/82)	4位 172点(76/96)	3位 220点(91/129)	3位 552点
三重県	4位 152点(99/53)	3位 198点(125/73)	4位 132点(76/56)	4位 482点